

オンライン作文・小論講座

文章博士

添削実例 - その1

<http://kangaeru.org/bunshohakase>

この添削実例はご本人の許可を得て作成したものです。  
通常の添削とちがい、当講座では1作品を3回書き直す方式をとっているため、  
作品の完成度が高くなることが期待されます。作品が変化向上していくようす、  
詳しい添削レポートをごらんください。

制作著作：考える学習をすすめる会

## <<第1回目の添削>>

### 米原万紀子さん

はじめまして。担当の掛下江美(かけしたえみ)です。どうぞよろしく申し上げます。第一回目の課題作文はどうでしたか？応募理由に「小論文と言われるだけでいやになってしまおう」とありましたが、今回の文を書くのも大変だったのかな？

でも同時に「自分でもきちんとした文章を書きたいという気はあるので、やってみたい」ともいっている万紀子さんはとても頑張り屋さんということが今回の作品を読んで本当によくわかりました。

自分の苦手な事や嫌なことから逃げずに取り組む万紀子さんならきっと作文を書くのも大好きになれると思います。一緒に頑張りましょうね！

#### 「クラブ活動」

米原 万紀子

私は今、部活動の時間が楽しくてなりません。私は、体力をつけようと思い、バスケットボール部に入部しました。しかし、バスケットボールの未経験者だった私には、毎日難しくてきつい練習ばかりでした。先輩に教えてもらいながら、練習についていくのがやっとでした。しかしだんだんと練習量も増えていき、毎日家に帰る頃にはへとへとでした。

・・・そうして1年間練習をがんばった成果がついに、今年になって現れました。体力テストでの記録が去年よりも大幅に伸びたり、マラソン大会の順位が12位上がった。それから、一番すごいと思ったのは、今まであまり好きでなかった体育の授業が、とても楽しく感じられるようになった事です。

これも、みんなバスケ部に入ってがんばったおかげだと思うと嬉しくて仕方がありません。先輩や後輩、同級生にも恵まれ、きつい練習も一緒にがんばって来れた事にとっても感謝しています。

私は部活がとにかく大好きです。バスケ部に入って本当に良かったと思います。これから後1年間、仲間と一緒に部活の時間を存分に楽しみたいと思います。

万紀子さんはバスケットボール部で頑張っているんですね。今の時期なら新入生も入り、中体連などに向けて練習に励んでいる頃でしょうか？

万紀子さんは「文章を書くのが苦手(?)」と思っているのかもしれませんが、中2でこれだけの文が書ける子はそんなにいませんよ。

今以上に「ピカピカの文章」にするためにはどうしたらいいのだろう？という点から見ると、万紀子さんの文の欠点はいろいろなことがうまくまとめられすぎているということです。

ですから、この面からアドバイスしましょうね。

まず、毎日難しくてきつい練習ばかりでした。とありますが、どんな練習だったのでしょうか？そしてそのきつい練習をすることについて万紀子さんはどう思っていたのでしょうか？

「**事実** = 練習の内容」と「**気持ち** = 万紀子さんはどう思ったのか」を書き加えるとずっと読む人にわかりやすい文になりますので、やってみてくださいね。

例) 新入生はまず、道具の準備から入ります。準備運動がすんだら体育館を20周！それから基本動作の練習を繰り返します。ボール拾いや後片付けも大切な仕事です。毎日先輩の指示に従って体育館の中を走り回りながら「私はなんでこんなきついことをやっているのだろう、授業が終わったらまっすぐ家に帰り、おやつを食べながらマンガを読んだ方が楽しいのに・・・」とっていました。

また先輩や後輩、同級生にも恵まれ、きつい練習も一緒にがんばって来れた事にとっても感謝しています。と書いていますが、どういったことで万紀子さんは「恵まれている」と思ったのでしょうか？その**エピソードを書く**と素晴らしい文になると思います。

例) あまりに練習がきついので「クラブをやめてしまおうか」と考えたこともあります。そんな時同級生の高田さんが「どうしたの？最近元気ない気がするけど？」と声をかけてくれました。「毎日練習で疲れてしまい、宿題をしながら寝ちゃったりするし・・・クラブをやめようかなあ・・・」という私に「えーっ、せっかく始めたのだから、頑張ろうよ！宿題はクラブが始まる前に一緒にやらない？私もその方が色々教えてもらえて助かるし。」といてくれたのです。

バスケットボールの練習を続け、色々な効果が出てきたことを「自分が頑張ったからだ」と思うだけでなく「先輩や後輩、同級生に恵まれた」「感謝している」と書くことができる万紀子さんは本当に素敵だと思います。

みんなで助け合い、力を合わせて勝利を目指すことがバスケットボールのようなチームゲームの面白さといえるのではないのでしょうか。そのことを万紀子さんが実感しているからこそ「感謝」という言葉が書けたのかもしれないね。

2 通目では**練習の内容**や**万紀子さんの気持ち**、**クラブの仲間に恵まれていることがよくわかるようなエピソード**を加え、最後に「**クラブ活動**」を**することの素晴らしさ**を書いてみましょう。

次回の作品を楽しみに待っています。

## <<第2回目の添削>>

### 米原万紀子さん

こんにちは、掛下です。第二回目の作文を拝見しました。まず驚いたのは、定められた期日よりはるかに早く提出してくれたこと。それからもう一つ驚いたのは一回目で**アドバイスしたことをきちんと盛り込んだ**作文にすっかり変わっていたことです。

万紀子さんにとっては「当たり前」のことなのかもしれませんが、同じように出来る人はなかなかいないものです。今回の件だけでも真紀子さんが「**素直で前向きな人**」ということがよくわかりました。ここで言う「素直」とは教科書に書いてあることをそのまま鵜呑み(うのみ)にする、という意味ではありません。まず言われたことをやってみる、そしてやっているうちに自分の中で「ほんとかな?」「どうしてだろう?」という疑問や質問が出てきたらさらにそれについて考えたり、調べたりする・・・そういうことが自然に出来る、ということこそ「素直」と言っているのです。これからもその「素直さ」を大切にして勉強にスポーツに充実した中学生を送ってくださいね。

---

#### 「クラブ活動」

米原万紀子

私は今、部活動の時間が楽しくてなりません。私は、体力をつけようと思い、バスケットボール部に入部しました。しかし、バスケットボールの未経験者だった私には、毎日難しくてきつい練習ばかりでした。

まず、とにかくたくさん走るのです。15分間体育館を走る時もあれば、2,5キロのマラソンコースを走るときもあります。しかもそれがただ走るだけではなく、**追い抜き走なのです**。ずっと同じペースでは走れないため、とても辛いです。**あまりに辛いので最初のうちは**「どうしてこんなに走らなければならないのだろう。**(私が走っている間、取る：以下同じ)**他の人たちは友達と遊んだり、楽しい時間を過ごしているんだろうなあ・・・」と悲しくなったりもしました。

走った後は、私の苦手な**レイアップシュート**やワンハンドのシュートなどを使った基礎練習がいくつかあり、**それが済んだら**フォーメーションや、試合での動き方について練習します。**苦手なシュートの練習では失敗が多く、その都度**コーチや先輩に**(も)**注意され、何度も嫌になりました。**そして日ごとに**練習量も増えていき、毎日家に帰る頃にはへとへとでした。

**はじめは**「体力をつけるためだけに入ったのだから・・・」と、転部も考えたりし**(てい)**ましたが、練習がきついからと言って**途中で**バスケ部をやめるなど**(、)**私のプライド

が許さず、(結局その後も)先輩方に教えてもらいながら、なんとか練習についていきました。

そうして1年間辛い練習を乗り越え、バスケ部でがんばってきた成果がついに、今年になって現れました。例えば体力テストでの記録が去年よりも大幅に伸びたり、マラソン大会の順位が12位上がったたり。それから、一番すごいと思ったのは、今まであまり好きでなかった体育の授業が、とても楽しく感じられるようになった事です。これも、みんなバスケ部に入ってがんばったおかげだと思うと嬉しくて仕方ありません。「とても辛い練習だったけど、転部せずにがんばってきて良かったなぁ」と心から思いました。

練習がなかなかこなせなくて困っている時、自分の練習の時間を削ってまで私にシュートフォームやドリブル教えてくださった先輩。部員の中での悪口やいじめに悩んでいる時は励ましてくれ、(私が)転部を考え(てい)た時には真剣に相談に乗ってくれた同級生。そして何もできないダメな私を頼ってくれて、明るい笑顔で元気付けてくれる後輩。今私は(、)先輩や後輩、同級生に(も)恵まれ、きつい練習も一緒にがんばって来れた事にとっても感謝しています。

私は部活がとにかく大好きです。バスケ部に入り、(そして)今まで続けて来ることができて本当に良かったと思います。チームプレーが一番大切なバスケットボール。中学生生活の残り1年(間)をこの素敵な仲間達と一緒に、どんなに辛い練習(であって)も乗り越え、(大事な部活の時間を)存分に楽しみたいと思います。

---

今回万紀子さんが取り組んだテーマ「クラブ活動」は小論文といっても「社会的意識を問う」ような「説得型」のものではなく、書いた人の「人柄や感受性」を見る「自由作文型」に当たると思います。小論文を試験科目の一つとして書く場合、まず出題者がどうしてこういうテーマを出したのか、という「出題者側の意図」を把握し、「その意図に配慮して」書く必要があります。

同じ万紀子さんが書いた作品なのに一回目より二回目の方がずっと万紀子さんの「人柄や感受性」が読む側に伝わりやすいと思いませんか？

日記と違い、小論文や作文は「自分以外の人が読む」のが前提ですから、読む人がわかりやすいように書くということを決えず心がけるようにしましょう。そのためには一回目にも言ったように「事実」と「気持ち」を書くようにすると効果的なのですが、あと一つ「誰が読んでもわかるような事を書く、そうでないときはわかりやすい説明を加えるか、最初から書かない」ということにも気をつけましょう。

今回の文では「**追い抜き走**や**レイアップシュート**」について誰でも簡単に「ああ、あれね」とわかるかなあ？・・・という気がしました。毎日練習に励んでいる万紀子さんなら簡単にわかることでもバスケットの経験がない人には「なんだろう？」とってしまうこともあります。

この場合なら、

例) 追い抜き走なのです。追抜き走とは・・・という練習法ですと同じペースでは走れないため、とても辛いです

と説明を加えたり、

例) 私の苦手なシュートの練習を中心とした基礎練習がいくつかありと簡単にまとめてしまった方がいいかもしれません。

万紀子さんは充分書く内容を持っており、人柄や感受性にも優れたものを感じます。後は書くことを恐れず、どんどん積極的に書いていって「書くコツ」をつかんでいくだけではないでしょうか？そのためには新聞の投書欄などを「私だったらこう書く」とか「この人の書き方はわかりやすくてうまいなあ」というように、絶えず「(自分が)書くこと」を意識して読むといいかもしれません。そして一回書いた自分の文を後からじっくり読んでみて「もっとわかりやすく書けないだろうか?」「もっといい表現方法はないだろうか?」と考えて見る、ということも大切です。そういう練習を積み重ねていけば、万紀子さんならきっと「**超優秀答案**」が書けると思います。

今回私が修正した箇所や、省略した方がいいのでは?と思ったところは赤字にしています。万紀子さんの二回目の作品と読み比べてみてくださいね。そしてもっと「わかりやすく」「読む人に自分の考えが伝わる」表現はないか、もう一度じっくり考え、この作品を「超優秀答案第一号」にして見ませんか?

三回目の作品を楽しみにしています。

## <<第3回目の添削>>

### 米原万紀子さん

こんにちは、掛下です。第二回の添削をこちらから送ったのは月曜日の夜でしたよね？平日は学校やクラブ活動もあって大変だと思うのに、今回も早い提出で本当にすごいなあ、と思います。すごいのはそれだけでなく、作品自体も素晴らしく変わりましたね。

---

#### 「クラブ活動」

米原 万紀子

私は今、部活動の時間が楽しくてなりません。私は、体力をつけようと思い、バスケットボール部に入部しました。しかし、バスケットボールの未経験者だった私には、毎日難しくてきつい練習ばかりでした。

まず、とにかくたくさん走るのです。15分間体育館を走る時もあれば、2,5キロのマラソンコースを走るときもあります。しかもそれがただ走るだけではなく、追い抜き走なのです。追い抜き走とは、全員で一列に並び、最後尾に居る人が次々とみんなの横を抜いていき、そして先頭につき、走る。その繰り返しなので、ずっと同じペースでは走れません。そのため、とても辛いのです。あまりに辛いので最初のうちは「どうしてこんなに走らなければならないのだろう。他の人たちは友達と遊んだり、楽しい時間を過ごしているんだろうなあ・・・」と悲しくなったりもしました。

走った後は、私の苦手なシュートを中心とした基礎練習がいくつかあり、それが済んだらフォーメーションや、試合での動き方について練習します。苦手なシュートの練習では失敗が多く、その都度コーチや先輩に注意され、何度も嫌になりました。そして日ごとに練習量も増えていき、毎日家に帰る頃にはへとへとでした。

はじめは「体力をつけるためだけに入ったのだから・・・」と、転部も考えたりしましたが、練習がきついからと言って途中でバスケット部をやめるなど私のプライドが許さず、先輩方に教えてもらいながら、なんとか練習についていきました。

そうして1年間辛い練習を乗り越え、バスケット部でがんばってきた成果がついに、今年になって現れました。例えば体力テストでの記録が去年よりも大幅に伸びたり、マラソン大会の順位が12位上がった。それから、一番すごいと思ったのは、今まであまり好きでなかった体育の授業が、とても楽しく感じられるようになった事です。これも、みんなバスケット部に入ってがんばったおかげだと思うと嬉しくて仕方がありません。「とても辛い練習だったけど、転部せずにがんばってきて良かったなあ」と心から思いました。

練習がなかなかこなせなくて困っている時、自分の練習の時間を削ってまで私にシューティングフォームやドリブル教えてくださった先輩。部員の中での悪口やいじめに悩んでいる時

は励ましてくれ、転部を考えた時には真剣に相談に乗ってくれた同級生。そして何もできないダメな私を頼ってくれて、明るい笑顔で元気付けてくれる後輩。今私は、先輩や後輩、同級生に恵まれ、きつい練習も一緒にがんばって来れた事にとっても感謝しています。

私は部活がとにかく大好きです。バスケット部に入り、今まで続けて来ることができて本当に良かったと思います。チームプレーが一番大切なバスケットボール。中学生生活の残り1年をこの素敵な仲間達と一緒に、どんなに辛い練習も乗り越え、存分に楽しみたいと思います。

---

一回目から三回目までの作品をプリントアウトして読み比べてみてください。同じテーマで同じ万紀子さんが書いた作品なのに随分変わったと思いませんか？万紀子さんは応募動機で「**きちんとした文章**を書きたい」と言っていました。充分に**きちんとした文章**だと思えますよ。

**きちんとした文章**というのは誤字や脱字がないとか、作文を書く際のルールをきちんと守っている、ということだけでは勿論ありません。書いた人の人柄や気持ち、言いたいことが読み手に十分に伝わる文章、それが**きちんとした文章**だと思えます。

三回目では追い抜き走について**青字**のような説明を加えたため大変さがぐっとわかりやすくなりましたね。また、先輩、同級生、後輩それぞれに対して感謝の気持ちを具体的に述べた**緑字**の部分は万紀子さんの人柄がよくあらわれていてとても好感が持てます。本当に素晴らしい作品に仕上がったと思います。

今回は文字数に制限がありませんでしたが、実際に試験科目の一つとして小論文が出題される場合は通常「**文字数**」と「**時間**」の制限があります。この制限内でいかに「**きちんとした文章**」を書けるようになるか？そのためにはやはり「**書く機会を出来るだけ増やす**」必要があると思います。今回のような**講座を受ける**というのもとてもいいことですし、それ以外にも**新聞の投書欄**や、これから夏休みに入ると中学生を対象にした**作文や小論文のコンクール**が各所で開催されると思います。その中で、万紀子さんが「書いてみたい」と思うようなテーマがあったら是非チャレンジして見てください。コンクールや新聞投書欄には大抵「**枚数や文字数**」に制限があります。チャレンジすることで「**定められた文字数の中でどれだけ自分の考えを読む人に伝えられるか**」という練習ができると思います。そうやって「**書く機会**」を積極的に増やしていけば自然に短時間でよりよい文章が書けるようになってくるでしょう。そしてそれはきっともうひとつの「**制限時間**」という問題を解決してくれます。

第1回目の講座はこれで終了です。私には小学生の子供が二人いますが、「万紀子さんのように何に対しても素直にそして前向きに取り組める中学生になってくれたらいいなあ」と思いつつながら添削をしていました。これからも勉強にクラブに充実した毎日を送ってくださいね。どうもありがとうございました。



ご参考：文章博士講座ウェブサイト

<http://kangaeru.org/bunshohakase>